

天寧寺

臨済宗の天寧寺は、僧侶の愚中周及（1323 年～1409 年）によって設立されました。愚中周及は 13 歳で僧侶として京都で修行を始め、19 歳の時に中国に渡り、即休契了（1269 年～1351 年）に師事しました。即休契了は愚中周及について、「中国に私の教えを理解しているものはいない。唯一理解しているのは日本から来た愚中周及のみである」と言っています。帰国後、愚中周及は京都の南禅寺に入りますが、都での贅沢な生活に不満を抱き、1365 年に丹波地方に移り天寺の住職となりました。

天寧寺の建物は、1777 年と 1961 年の 2 回、火災で被害を受けています。この 2 回の火災で残ったのは、京都府指定文化財に指定されている創設者の愚中周及を祀る開山堂（1793 年に建設）と仏を祀る薬師堂（1794 年）の 2 つだけです。愚中周及が祀られる開山堂は、白い漆喰の壁の珍しい六角形の構造です。仏が祀られる薬師堂には、有名な画家の原在中（1750 年～1837 年）による巨大な龍の天井画があります。この天井画は「八方にらみの龍」と呼ばれ、部屋のどこに立っていても龍の目が見る人をにらんでいるのです。

天寧寺の訪問者は、手入れの行き届いた庭園の中を自由に歩き、建物を外から眺めることができます。さらに予約をすれば、建物に入って龍の天井画を見ることができます。